

展開例10 生徒用「アドバイスシート」を保護者会に活用する

1. ねらい

- ①保護者がいろいろな子どもがいることを知ることで視野を広げる。
- ②子どもの長所の探し方を学ぶ。
- ③わが子の長所をよりよく知ってうまくほめる。

2. 準備するもの

- ①生徒用「アドバイスシート」
- ②「保護者用シート」(p.29をコピーしてお使いください)

●導入

「先日『わくわく』という進路適性検査を実施しました。今日はその結果を使って、お子さんのよいところを探してうまくほめる方法を一緒に考えていきたいと思います。普段お子さんと接していて、短所ばかりが目についてしまうのではないのでしょうか。欠点を知っておくことも必要ですが、長所を認め、それをお子さんに伝えほめることはとても大事なことです。進路適性検査という客観的な資料を使いますので、皆さんが思い描いているお子さん像と違った一面が発見できるかもしれません。」

●展開

- ①保護者に、生徒用「アドバイスシート」「保護者用シート」を配布する。



- ②保護者に、生徒用「アドバイスシート」から読み取れるわが子の長所を、「保護者用シート」の左半分に箇条書きで書いてもらう。



- ③保護者に、自分の名前か、あるいはID番号として、電話番号の下4桁などを、「保護者用シート」の裏面に書いておいてもらう（後で返却するため）。



- ④「保護者用シート」を回収する。



- ⑤円形に机を並べ着席してもらう（使用する会場や人数によっては円形にならなくてもよい）。



⑥「保護者用シート」を、書いた人が特定できないように交ぜて、1枚ずつ配布し、以下の教示を行う。

- ・「保護者用シート」の左半分に書かれた長所をもつ生徒に対して、愛情深い（ほめるのがうまい）親が掛けるであろう一言を書く。1行程度にし、長々と書かない。
- ・わが子と比較したコメントは避ける。
- ・深く考えると苦しいだけなので、直感的に書いてよい。
- ・ほかの人のコメントは見ない。少なくとも気にしない。
- ・書く場所は右半分になるべくでたらめな位置を選んで書く（こうすることで参加者が「生真面目になりすぎる」ことを避ける。また、特定の一言を書いたのは誰かをわからなくする意味もある）。
- ・書き終わったら隣の人（円形に座っていない場合は次の人）に渡す。
- ・新しいシートを受け取ったら、先の要領で一言を書く。

*注

- ・書くのが遅い人がいる場合、その人に「気軽に書いてください」と声を掛けるか、全員に対して次の人に回すのを一時ストップするように伝える。または、何も書かずに次の人に回してもよい。
- ・全員が全部のシートにコメントする必要はない。また、前とは違ったほめ言葉が思い浮かぶかもしれないので、同じシートに何回コメントしてもよい。



⑦時間がきたら、全部のシートを回収し、裏面に書いてある名前、あるいは番号を手がかりに返却する。

●まとめ

「ほかのお子さんのシートや、自分のコメントについて思い起こしてください。いろいろな個性の子どもがいることや、自分が子どもの個性をほめる能力があることに気付いていただけたと思います。シートの右側のコメントをじっくり検討してください。そこには気付かなかったお子さんの長所や、自分では思いつかなかったうまいほめ言葉が書かれているかもしれません。帰宅後、シートの右半分をお子さんに渡してもよいでしょうし、コメントの中で気に入ったものをお子さんに伝えてもよいでしょう。お子さんをほめることで、よりよい家族関係を築いていってください。」

保護者用シート

年 月 日

【進路希望】

「希望を実現する」の「進路希望」を見て、お子さんの希望進路先を書いてください。また、それに関連するエピソードを書いてください。

例：4年制大学に進学して経済関係の学部に入りたいみたいです。家では何も言わないけど、いろいろ考えているのかな。

【興味プロフィール】

「個性をみつける」の「興味プロフィール」を見て、お子さんの中で高いものを書いてください。また、それに関連するエピソードを書いてください。

例：「困っている人の世話をする」の興味が高いようです。弟妹に慕われているのかしら。

【性格プロフィール】

「個性をみつける」の「性格プロフィール」を見て、お子さんの中で高いものを書いてください。また、それに関連するエピソードを書いてください。

例：「感情のコントロール」が高くてすごいと思います。めったに怒ったりしないんです。

【その他】

上記のほかに、良いところを書いてください。また、それに関連するエピソードを書いてください。

例：職業にも学問にもそこそこ適性があって少しホッとしました。進路選択は自分の実力でしてほしいと思います。